

京きょうの雪ゆき（安藤残雨あんどうざんう）

暁あかつきに起おき簾すだれを撥かかぐれば天地てんち白しろし

雪ゆきを賞しょうし雪ゆきに吟ぎんず旧都きゅうとの冬ふゆ

金閣きんかく銀閣ぎんかく応まさに佳景かけいなるべし

我われに迫せまる四明しめい鞍馬くらまの峰みね

解説 雪の京都の風情を詠じたもの。

語釈 ※暁あかつき|| 夜の明けるころ。 ※簾すだれ|| 細い葦や細く割った竹を糸で編み連ねて垂らすもの。日よけ。 ※撥かか|| 手に持って高く上げる。 ※旧都|| 昔の都。京都のこと。 ※金閣、銀閣|| 金閣寺、銀閣寺のこと。 ※佳景|| いいながめ。いい景色。 ※四明|| 比叡山。 ※鞍馬|| 鞍馬山の略。

通釈 朝、起きて簾を上げると辺り一面の雪。

京都の冬は雪を賞し、雪を吟ずるに値する。雪の金閣寺、銀閣寺はまさに絶景。また遠くを眺めると比叡山、鞍馬山の峰が自分に迫って来るようだ。